

みんなでつなぐ

ダム水源地域ネット

2001.2月号

2



散歩道

安全で安心して住める国土づくり

こちらダム水源地域

山形五堰クリーン作戦 ほか

特別企画

ダム水源地域活性化支援事業 認定結果について

地域活性化レポート

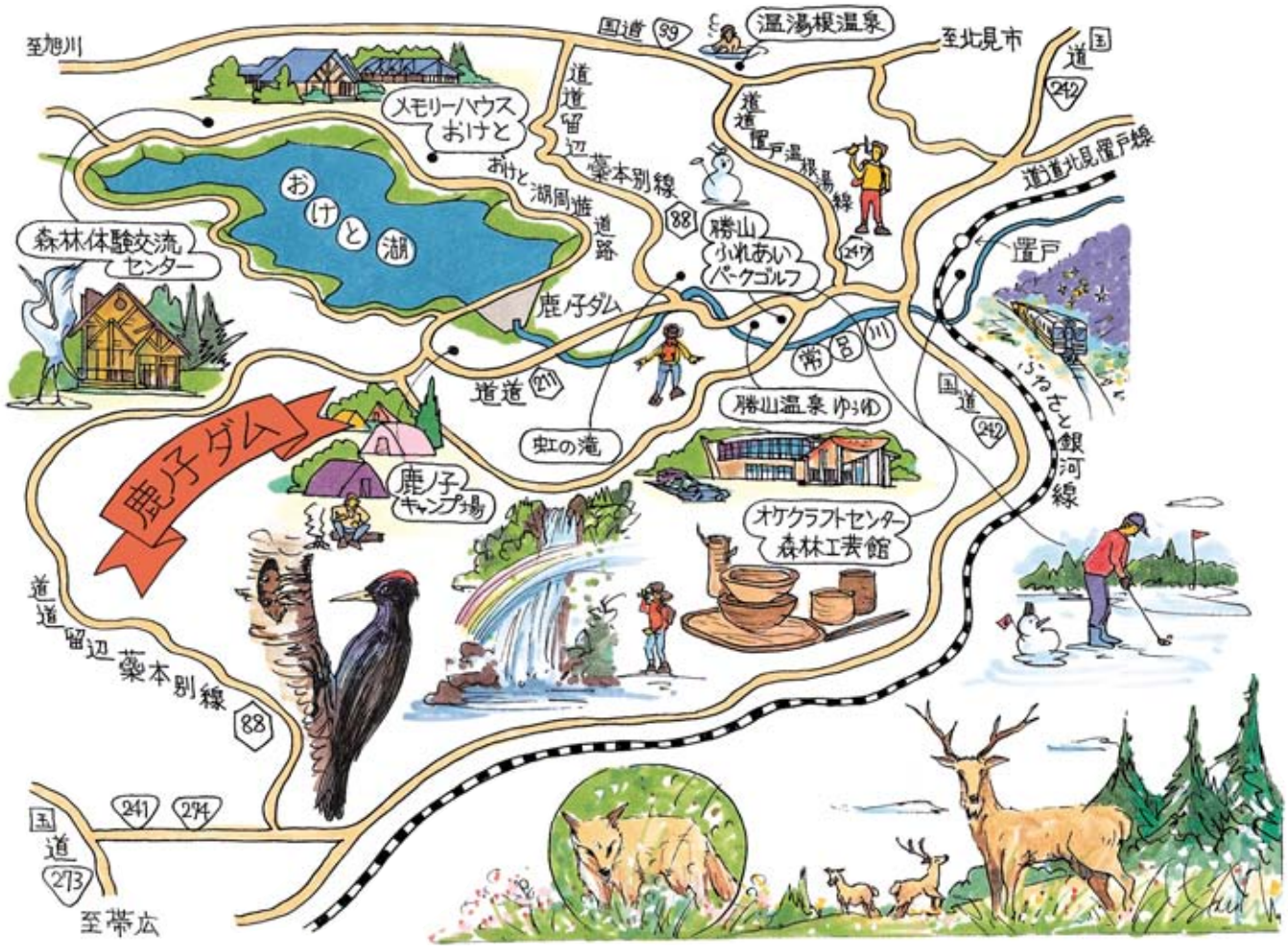
自ら（水から）の発想によるまちづくり

ワンポイント・ゼミナール

水源地域対策のあゆみ（その1）

鹿ノ子ダム

緑と清流の町、森林とともに



今月の水源地

鹿ノ子ダム
緑と清流の町、森林とともに —— 2

今月の行事 —— 4

散歩道(バセオ)

安全で安心して住める国土づくり 岩瀬幹夫 —— 5

ワンポイント・ゼミナー

水源地対策のあゆみ(その1) —— 6

こちらダム水源地

山形五堰クリーン作戦 —— 8

室生ダム探検と植樹ツアー —— 9

地域活性化レポート

自ら(水から)の発想によるまちづくり —— 10

情報ホットライン

第 3 回
「水源地生態研究会議」及び
「水源地生態研究セミナー」開催 —— 12

特別企画

ダム水源地活性化支援事業 認定結果 —— 14

トピックス —— 15

(今月の表紙)

鹿ノ子ダム 氷上釣りにわく厳冬のダム湖

編集事務局：財団法人 ダム水源地環境整備センター ダム広報センター

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2

TEL 03-3263-9051 FAX 03-3263-9085

http://www.wec.or.jp/

E-mail:koho@wec.or.jp

北海道置戸町は、オホーツク海に流れを注ぐ常呂川ところがわの最上流部、大雪山連峰の東側に位置し、町の総面積の86%が森林に囲まれた人口約4000人の緑と清流の町です。

当町の鹿ノ子ダムは、洪水調節、河川環境の保全、かんがい、上水道用水の確保を目的とした多目的ダムとして昭和58年9月に完成し、「おけと湖」として町民に親しまれています。周辺には、湖を一望できる天然温泉「メモリーハウスおけと」や、バードウォッチングが楽しめる「森林体験交流センター」、ゴーカートコース、本格的ログハウスバンガローを有する「鹿ノ子キャンプ場」もあります。周囲の森林は、エゾマツ、トドマツ等の針葉樹のほか、イタヤカエデなどの広葉樹林も拡がり、四季を美しく彩っています。

湖周辺では、毎年7月下旬に「おけと湖水まつり」が行われ、ダム見学会、森の工作教室、「カヌー」体験コーナー、「水中イケス」釣り大会、「ペットボトルロケット」飛距離大会などが行われています。

このおけと湖は、平成元年4月に漁業管理に関する条例を施行し、夏はヤマベやアメマス、冬はワカサギやニジマス釣りが楽しめます。冬の寒さが一段と厳しい1月下旬には、「氷上釣り大会」が開催されます。あたり一面銀世界におおわれた湖面に色とりどりのテント村が鮮やかに出現し、40cm以上の氷にドリルで穴を開け、ワカサギ釣りを楽しんでいます。

そのほかには、10コース、90ホールと日本一の規模を誇るパークゴルフ場もあり、四季を通して豊かな自然が楽しめる置戸町へ是非一度お越しください。

置戸町のおみやげ
置戸町のイベント
交遊

ワイン「おけと」、オケクラフト製品、置戸ジャム
おけと湖氷上釣り大会、おけと夏祭「人間ばん馬」、おけと湖水まつり
国道39号を旭川方面に向かい北見を通り、留辺蘂で国道242号に左折。

北海道 置戸町長 井上 久男
(☎ 〇一五七 五二 三三三一)

2月

《東北》

24日(土)/大井沢雪まつり(場所:山形県西川町河川公園・自然と匠の伝承館)主催/大井沢地区・同実行委員会
内容/雪像、願かけ花火、スノーモービル試乗、自然と匠の伝承館一般開放、等。【西川町☎0237-76-2111】
西川町には寒河江ダムがある。

24日(土)25日(日)/中津川雪祭り(場所:山形県飯豊町)
主催/中津川むらづくり協議会 内容/中津川地区住民の総参加を基本とした手づくりの祭り。雪像、花火、餅つき、かくし芸、等。【中津川地区公民館☎0238-77-2020】
飯豊町には白川ダムがある。

《関東》

1月28日(日)~2月28日(水)/光り輝く氷のぼんぼりとかまくら祭り(場所:栃木県栗山村湯西川温泉)主催/栗山村温泉旅館組合【☎0288-98-0885】内容/光り輝く氷のぼんぼりに照らされたかまくらが美しく並び、パーベキュー、餅つき、等。栗山村では湯西川ダム・三河沢ダムを建設中。

1日(木)~28日(水)/第3回すいふふるさと味まつり(場所:茨城県水府村物産センター)主催/水府村・観光協会 内容/水府村の食材を利用した郷土料理を提供する。【水府村観光協会☎0294-85-1116】水府村には竜神ダムがある。

《北陸》

18日(日)/しんせつ池田能楽の里冬まつり2001(場所:福井県池田町)主催/池田町【振興開発課☎0778-44-8004】
内容/スノーモービル体験や、熱気球体験、等。大猪鍋、タレントショー等実施。池田町周辺では、足羽川ダムを調査中。

17日(土)18日(日)/クロスカントリーinおおすぎ(場所:石川県小松市)主催/クロカン小松・クロカン加賀・教育委員会 内容/雪の中をスキーをはいて思い思いに歩き、冬の自然に親しむ。定員120名。【コマツサンスポーツ☎0761-21-1371】小松市には赤瀬ダムがある。

1月27日(土)~3月3日(土)の毎土曜日/宇奈月冬物語(場所:富山県宇奈月スキー場)主催/宇奈月温泉観光協会
内容/雪上火花・もちつき・もちパーベキュー大会など。【宇奈月町温泉観光協会☎0765-62-1515】
<http://www.newotani.co.jp/group/unazuki/>
宇奈月町には宇奈月ダムがある。

《中部》

21日(水)/美和ダム恒久堆砂対策施設起工式(場所:長野県高遠町勝間地先)主催/国土交通省中部地方整備局三峰川総合開発工事事務所【総務課☎0265-98-2921】内容/美和ダムのトンネル工事着手により事業の本格化の運びとなり、起工式を行う。

25日(日)/第37回陶一周駅伝競走大会(場所:岐阜県瑞浪市陶町内)主催/瑞浪市体育協会陶支部【瑞浪市陶コミュニティーセンター☎0572-65-2111】申込み終了。
陶町では小里川ダムを建設中。

《中国》

18日(日)/しゅうとう中山湖健康マラソン大会(場所:山口県周東町中山川ダム湖周辺)主催/同実行委員会【周東町教育委員会社会教育課☎0827-84-7707】申込み終了。

《四国》

21日(水)/坂本ダム竣功式(場所:高知県宿毛市)主催/高知県 内容/坂本ダム竣功式典【土木部河川課☎088-823-9841 坂本ダム建設事務所☎0880-64-0321】

《九州》

18日(日)~3月18日(日)/おおやま梅まつり(場所:大分県大山町)
主催/同実行委員会 内容/観梅、3月にメインの日を決めて豊作祈願祭、梅娘認証式、期間中フォトコンテストを実施。【大山町産業振興課☎0973-52-3101】
大山町では大山ダムを建設中。

3月

《東北》

10日(土)・11日(日)/雪の学校(場所:山形県小国町白い森交流センターりふれ)主催/同実行委員会 内容/冬のブナ林の散策などを行い、またぎの方とのふれあいをを行う。
【小国町商工観光課☎0238-62-2111】
小国町では横川ダムを建設中。

《関東》

4日(日)/生き物の冬越し(場所:神奈川県宮ヶ瀬ダム湖畔宮ヶ瀬ビジターセンター周辺)主催/宮ヶ瀬ビジターセンター【☎046-288-1373】内容/宮ヶ瀬湖周辺地域の生き物を探ることにより、寒い冬をどのように過ごしているのかを知る。申込み締め切り2月20日。(往復ハガキにて)

16日(金)~18日(日)/「国連水の日」シアターピール(場所:埼玉県JR大宮駅)主催/ハツ場ダム工事事務所【調査設計課齋藤☎0279-82-2311】内容/ハツ場ダム受益者である埼玉県民に対し、ハツ場ダム及び水源地・長野原町のPRを行う。

18日(日)/ツル(藤・葛)細工教室(場所:宮ヶ瀬ダム湖畔宮ヶ瀬ビジターセンター周辺)主催/宮ヶ瀬ビジターセンター【☎046-288-1373】内容/自然の素材を使った工芸品を作ることに、自然の良さを再認識する。申込み締め切り2月28日。(往復ハガキにて)

《北陸》

3日(土)・4日(日)/白山一里野温泉スキー場スキーフェスティバル(場所:石川県尾口村白山一里野温泉スキー場)主催/尾口村 内容/初日は、かまくら、雪像、一里野鍋サービス、ニューモデルスキー試乗会、ちびっ子コーナー等。
【白山一里野温泉スキー場☎07619-6-7412】
尾口村には手取川ダムがある。

《中国》

11日(日)/夢ふたたび江の川 鮭よ帰ってこい(場所:広島県三次市)主催/同実行委員会 内容/江の川への鮭放流により、河川への関心を高めるとともに環境問題に対する啓発を行う。【三次工事事務所☎0824-63-4121】
三次市周辺では灰塚ダムを建設中。

上旬/島地川ダム 高瀬湖 周辺記念植樹(場所:山口県新南陽市島地川ダム湖)主催/山口工事事務所 内容/地元新南陽市立和田小学校によびかけ、卒業記念植樹を行う。
【島地川ダム管理支所☎0834-67-2878】

《四国》

11日(日)/綾上町米の里ジョギング大会(場所:香川県綾歌郡綾上町田万ダム湖周辺)主催/同実行委員会
【綾上町教育委員会☎087-878-2305】

《九州》

4日(日)/鶴田ダムジョギング大会(場所:鹿児島県鶴田町鶴田ダム湖周辺)主催/鶴田町・鶴田町教育委員会【社会教育課☎0996-59-2022】内容/申込み終了。当日、特産品販売あり。

安全で安心して住める国土づくり

岩瀬 幹夫

富山県上平村 村長



上平村は、富山県の西南端、岐阜・石川県境に位置する人口900人弱の村であります。俱利伽羅の戦で敗れた平家の残党が逃げ延びた地とも言われ、表屋節、筑子節等多くの民謡と豊かな自然、合掌造り民家等で広く世に知られ、「白川郷、五箇山の合掌造集落」としてユネスコ世界文化遺産にも登録された村です。

本村では、県西部の水需要量増大に対処するため、洪水調節、かんがい、工業・上水道用水、発電及び消流雪用水の確保を目的として18年の歳月と385億の巨費を投じて、平成5年に「境川ダム」が竣工しました。

ダム湖は「桂湖」と命名され、ダム本来の目的はもちろん湖面利用として日本ボート協会認定のB級2000mのボートコースが整備されています。また周辺の野外活動施設として歴史、自然観察拠点としてのビジターセンターやオートキャンプ場、ログハウスのコテージ、軽食喫茶店等が整備され全国各地の大学、高校、企業等が合宿に訪れ、多くの利用者に喜ばれています。ダム上流部には人家や農地が全くなく、水の大変美しい湖として有名でもあります。この境川ダムの竣工によりまして、富山県の約半分に当たる県西部では洪水被害による調整、農

業用水の確保等大きな恩恵を受けております。21世紀は、「水・環境の世紀」とも言われていますが、水の源である森林の保全とダム湖の建設整備が安全で安心して住める国土の形成にもっとも重要と考えております。



満々と水を湛えた境川ダム・桂湖を見るとき建設関係者のご苦勞に感謝し、この桂湖が都市の若者と山村住民の交流の場として、さらに発展することを念願するところであります。

(全国ダム所在市町村協議会 会長)

水源地対策のあゆみ(その1)

国土交通省河川局河川環境課流水管理室
流水計画係長

小池 栄史

はじめに

平成11年度に「21世紀の水源地ビジョン 水源地の総合的な整備のあり方に関する提言」(水源地対策懇談会 座長 東京大学虫明功臣教授)がなされました。これは、これからの水源地対策が、ダム事業促進のための対策であることに加えて、管理段階においても水源地が自立的・持続的に振興し、ダム貯水池に求められる治水、利水、環境機能が十分発揮できるようにハード、ソフトの両面から行われる総合的な整備を実施していく必要があるという内容となっています。

今後、この提言に沿って新しい水源地対策を展開するに当たり、これまで実施してきた諸施策が生まれてきた社会背景や水源地対策の効果を振り返りつつ、将来の施策の参考とするとともに、昭和51年10月1日、建設省河川局開発課に設置された水源地対策室が、平成13年の省庁再編により、改組され、国土交通省河川局河川環境課流水管理室に業務を引き継ぐことをきっかけとして、これまでの水源地対策の系譜を冊子「水源地対策のあゆみ」として取りまとめる

作業を行っております。

その概要について2回シリーズで、ダム建設の歴史と水源地対策の変遷、水源地対策が果たしてきた役割や、これからの水源地対策の方向性について紹介します。

本稿では、ダム建設の歴史と水源地対策の変遷について紹介します。

ダム建設の歴史と水源地対策の変遷

わが国の本格的なダム建設は、治水、深刻な食糧難への対応、電力不足の解消のため、アメ

リカのTVA(テネシー渓谷開発事業)にならった河川総合開発計画が、全国各地に進められたことなどに端を発しました。水源地対策の歴史は、その時代の社会背景と常に密接な関係にあります。

そこで、わが国における水源地対策の歴史、社会背景の移り変わり、ダムに関わる法制度・事業制度の歴史等を三つの時代区分のもとに年表として整理しました。

戦後から昭和50年頃・補償による対応(本格的なダム建設・水源地対策の草創期)

H7 1995	H12 2000
流域経営の時代 とした地域づくり	
97:河川法改正 94:建設省環境政策大綱 アクセス法	
93:ダム水源地ネット新刊 インターネットによる広報	
川水辺の国勢調査 96:フォローアップ制度試行開始	
93:ダム水環境改善事業 97:樹林帯制度	
94:ダム湖活用環境整備事業	
92:地域に開かれたダム 92:水源地工キスバート制度	
94:水質保全等のダム貯水池での実施 救・農地等の範囲拡大 95:高齢者福祉対策事業の追加	
92 地域に開かれたダム第1号 (金山ダムほか)	96 水源地整備国際セミナー開催 99 21世紀の水源地ビジョン 98 那須災害・台風5号洪水(関東)
94 列島治水	96 ダム等事業審議委員会(試行開始) 96 冬季治水(関東) 95 かながわ水源の森づくり基金

戦後復興、災害復旧、経済成長などへの対応のため、ダムが各地に建設された時代であり、水源地对策は、ダム起業者による補償によって行われていました。

昭和50年頃から60年頃・マイナス影響の緩和（補償、水源地对策特別措置法、

水源地对策基金の三位一体の時代）

ダム建設による水源地の社会環境や自然環境への影響緩和のため、国や都道府県の支援のもとで多彩な地域対策が行われるようになり、また下流受益地である都市が中心となって基金の設立が進みました。これにより、補償、水特法、基金という三つの施策を水源地对策における一体不可分の施策として位置づけ、相互に補完しあいながら施策を実施していく体制、つまり三位一体の体制が確立しました。

昭和60年頃以降・ダム事業を核とした地域づくり

（流域経営の時代）

水源地を中心とした流域連携、環境との共生など、地域づくりの質が一層問われるようになり、官民を含め流域が一体となって水源地の将来の姿（ダムを核とした地域づくり）を模索する時代へと変わってきました。

水源地对策のあゆみ（年表）

年号/西暦	S20 1945	S30 1955	S40 1965	S50 1975	S55 1980	S60 1985	H2 1990
時代区分	I ダム建設・水源地对策の革新期				II：三位一体の時代		III
水資源開発関連の法制度等	37:「河水統制事業」創設		57:特定多目的ダム	64:河川法	73:水源地对策特別措置法	74:電源三法	
広報PRダム建設のための広報.....			ダム資料館	多様なメディアによる広報・ダムインフォメーションセンター		
流域連携							上下流交流のイベントなどの開催 -87 森と湖に親しむ旬間開始
環境への配慮					78:アセス当番の措置方針(例:三尊ダム)	79:「貯水地保全事業」創設	84:アセス要綱閣議決定
地域活性化の施策					75:ダム周辺環境整備事業	74:ダム所在市町村交付金	87:特定貯水池流域保全事業
基金					水源地对策基金	76:利根川・荒川	80:淀川
電源三法					77:本曾三川	77:豊川	78:矢作川
水特法					73:水源地对策特別措置法制定	82:筑後川	86:吉野川
補償による対応					72:琵琶湖総合開発	79:実施対象事業の追加	79:水没戸数・農地等の範囲拡大
					67:公共補償基準制定(補償範囲の明確化、項目の統一)	92:水没戸	
	-54:損失補償基準制定		62:一般補償基準		79:生活再建対策費		83:生活環境対策費
(洪水・濁水・ダム事業)	45 経戦	47 カスリン台風	48 建設省設置	53 西日本水害	53 多目的ダム第1号(石淵ダム竣工)	59 伊勢湾台風	59 伊勢湾台風
					64 特ダム第1号(湯田ダム竣工)	64 特ダム第1号(湯田ダム竣工)	64 特ダム第1号(湯田ダム竣工)
					64 利根川導水事業	64 利根川導水事業	64 利根川導水事業
					66 水公園第1号(矢木沢ダム)	66 水公園第1号(矢木沢ダム)	66 水公園第1号(矢木沢ダム)
					71 国土庁水源地对策施設設置	71 国土庁水源地对策施設設置	71 国土庁水源地对策施設設置
					73 高松砂浜	73 高松砂浜	73 高松砂浜
					73 水特法指定第1号(川治ダムほか)	73 水特法指定第1号(川治ダムほか)	73 水特法指定第1号(川治ダムほか)
					76 河川局開発課に水源地对策室開設	76 河川局開発課に水源地对策室開設	76 河川局開発課に水源地对策室開設
					77 「水源地对策特別措置法」設置	77 「水源地对策特別措置法」設置	77 「水源地对策特別措置法」設置
					78 福岡濁水・首都圏濁水	78 福岡濁水・首都圏濁水	78 福岡濁水・首都圏濁水
					82 長崎水害(豪雨・10号台風)	82 長崎水害(豪雨・10号台風)	82 長崎水害(豪雨・10号台風)
					82 水源地对策センター開始	82 水源地对策センター開始	82 水源地对策センター開始
					85 近畿中部大洪水	85 近畿中部大洪水	85 近畿中部大洪水
					87 第1回森と湖に親しむ旬間(川治ダム)	87 第1回森と湖に親しむ旬間(川治ダム)	87 第1回森と湖に親しむ旬間(川治ダム)
					87 環境アセスメント第1号(阿仁川ダム)	87 環境アセスメント第1号(阿仁川ダム)	87 環境アセスメント第1号(阿仁川ダム)
					90 首都圏濁水	90 首都圏濁水	90 首都圏濁水
					90 平地ダム第1号(波良瀬貯水池)	90 平地ダム第1号(波良瀬貯水池)	90 平地ダム第1号(波良瀬貯水池)
					91 九州黒川木による洪水災害(台風19号)	91 九州黒川木による洪水災害(台風19号)	91 九州黒川木による洪水災害(台風19号)



山形五堰クリーン作戦

みんなの手できれいにしよう！

山形市の笹堰・御殿堰・宮町堰・八ヶ堰郷堰・双月堰で構成される「山形五堰」は、約380年前から馬見ヶ崎川より取水され、農業用水路として市内の中心部を流れており、上流には洪水調節、河川環境の保全、上水道用水の確保を目的とした多目的ダムの蔵王ダムがあります。

この「五堰クリーン作戦」を行うことにより、五堰が農業用水だけではなく、親水空間や防火用水としても利用されている歴史的遺産であることを多くの市民に認識してもらい、ゴミ捨て等を防止し、みんなで守っていくことを目的に、平成10年から年一回行っています。

毎年、米などの穀物の収穫が終わる、水利用が比較的少なくなる11月に行っていますが、この時期の山形はとても寒く作業もたいへんです。しかし、年々参加者も増え、3回目となる今回は、五堰の水利組合員・土地改良区職員・地域住民・県および市の関係職員等合わせて約60人もの方々が集まりました。

参加者を数班に分け、一人一人ゴミ袋と炭ばさみを持ち、長靴で堰の中に入って各自ゴミ拾いを行います。



堰の中に入り、ゴミ拾い

た。そして、作業終了時には、空き缶・空きビンをはじめ、ビニール袋、木片、プラスチック類などさまざまな種類のゴミが集められ、軽トラの荷台がいっぱいになるほどでした。なかには小型家電やナベなども捨てられており、五堰の一部ではあ



収集されたゴミの分別作業

りますが、ゴミ捨て場のようになっていた実体に驚かされました。

参加した方からも、「ゴミの多さにびっくりしました。これからもきれいな水が流れつづけるようみんなできれいにしていかなければ」「子ども頃は水遊びができるほどきれいだった」等々、それぞれに五堰への関わりや想いを再認識している様子でした。

今後もこの「五堰クリーン作戦」を通じて、長い間多くの市民に親しまれてきた遺産「山形五堰」を末永く守りつづけていきたいと思えます。

山形市産業部 田園整備課
日野 孝寛



むろお
室生ダム
奈良県

室生ダム探検と植樹ツアー

〈ダムの内部見学と植林体験〉

昨年12月9日(土)、淀川水系ダム水源ネットワーク主催による「室生ダム見学と植樹ツアー」が奈良県内で開催されました。

室生ダムは三重県に近い奈良県宇陀郡室生村の名張川支川宇陀川上流に位置するコンクリート重力式の多目的ダムとして、昭和49年水資源開発公団により建設されました。また、植樹会場となる奈良県榛原町内牧嶽地先は、平成10年の台風7号の強風により、約3haの樹齢120年の杉と檜が被害を受けた山林です。このたび、地元自治会からの提供を受け、今回の企画を実施しました。



室生ダム監査廊に入る



家族でおいしい昼食会

このツアーは、下流受益地の牧方市と奈良市付近の住民を広報等で一般公募したもので、募集人員100名に対し150名を超える応募があり、抽選により参加人員を決定しました。参加者の年齢は4歳から77歳まで幅広く、それぞれの出発地から大型バスに乗り込んでの出発です。当日は天候にも恵まれ午前中の「室生ダム」見学では通常非公開の監査廊見学、ダムの役割やダムができるまでなどをビデオで紹介していただきました。

バスを降りてから会場まで、約30分ほどの登り勾配の行程があつたためやや疲れ気味でしたが、地元の人々の優しい言葉に励まされ、また、昼食では地元自治会婦人会により、今



ソメイヨシノ植樹風景

では珍しい笹で包んだおにぎりや温かな豚汁が振る舞われ、お代わりを何回もされるほど大盛況・大満足でした。

その後、植樹をする樹種が「ソメイヨシノ」であることや、その植樹方法、注意事項の説明を受け、35名の小グループに分かれて穴掘り、苗木の植え付け、添え木あて、水やりまでの工程を体験。ご家族、仲よしグループ、また地元の方々との共同で作業するなど40本あまりのソメイヨシノが植樹されました。帰りのバスでは、桜が咲く頃にもう一度企画して欲しい、地元の優しさにふれあえたことが楽しかった、等の声があり、スタッフ一同にとっても喜びの一日となりました。

社団法人 近畿建設協会 技術第一部 課長 加瀬 博行 参事

自ら（水から）の発想によるまちづくり ～水の郷おみがわ～



千葉県小見川町 企画管理課
企画調整係長

松山 裕正

① ふる里の風景

黒部川を活かしたまちづくり

小見川町は、千葉県北東部に位置しています。太平洋に注ぐ坂東太郎・利根川の緩やかな流れを経て、茨城県・鹿島市、神栖町かみすまと対峙し、利根川舟運の河港、北総の商都として栄えてきました。町の中心を利根川支川である黒部川が流れ、沿川には市街地が形成され、総面積の約45%を占める田園風景が広がっています。

今日でも、古い商家や家並み、土蔵、船着き場など、城下町の風情とともに河港時代の面影が見られます。

また、国指定の貝塚や古墳群など、文化財の宝庫としても名高く、古人の足跡が残されています。雄大な利根川や黒部川は、時代の人々の生活舞台となり、「水郷のまち」として悠久の歴史を今に伝えています。

② 自然の再生

水からの発想から 自らの発想へ

かつての河岸町としてのにぎわいも、時代のすう勢とともに薄れ、黒部川も、家庭や企業からの排水などにより昔の美しさを失い、水辺はいつの間にか人々から遠ざかる風景と化してしまいました。

このようななか、「水の都」の復権を目指す機運の高まりから、町のシンボル黒部川を活かしたまちづくりがスタートしました。

近年、建設省リバーバード区間の認定や千葉県・黒部川ふるさと川づくり事業、さらには、平成11年度から国庫補助事業・黒部川災害復旧関連事業（総工事費約32億円）を県の事業として六橋の架替えなどを実施しています。また、国県町事業の重層的展開により、川周辺は、より安全に美しく整備されつつあります。

また、沿川には、海洋クラブ員の活動拠点「小見川海洋センター」をはじめ、「町スポーツコミュニティセンター」、「県立水郷小見川少年自然の家」がオープンしました。

特に、平成4年度には「アジア・オーストラリア地区水上スキー選手権大会」が開催され、カヌー・ボートの全国大会常設会場ともなりま

河港時代の風情が残る黒部川



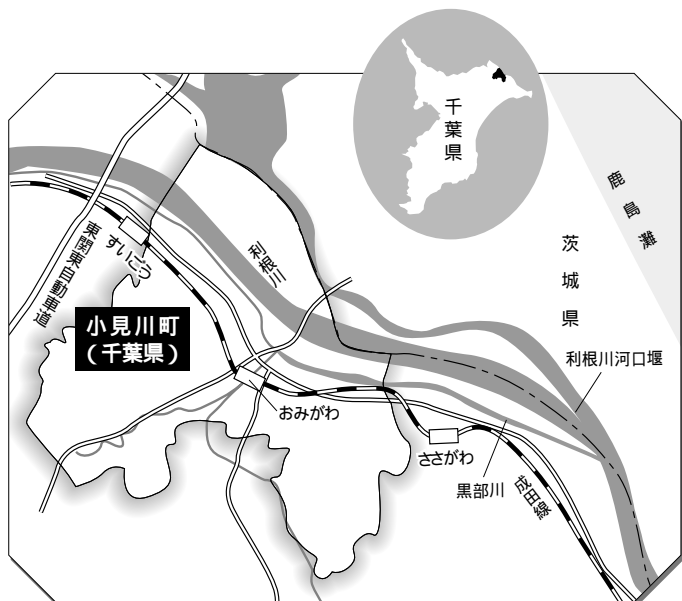
水上スポーツのメッカとして発展

した。一方、誰もが水に親しめるイベントとして、町民主体による「町民レガッタ」も開始され、また町内の中学校においても、県下初のカーブ部、ボート部が誕生するなど、水上スポーツの裾野が大きく広がっています。

とりわけ平成2年度から始められた「町民レガッタ」は、今では出場者だけでも1000人（200クルー）を超える。夏の祭典「にまで成長し、10年度には「全国市町村交流レガッタ」が開催されています。

③ 行政と町民のパートナーシップ

世界を視野に入れた水上スポーツのメッカづくりは、町民一人ひとりの自らの発想に支えられています。



昭和63年、河川の水質浄化を図るため、住民ボランティアによる「黒部川をふるさとの川にする会」が結成。現在、1200人以上の会員により運営され、毎月第一水曜日を「河川清掃の日」として、川の清掃を行うほか、沿川の「四季の花壇」では、年2回、大勢の住民が参加して「花植祭」が行われています。平成7年度には、建設省「森と湖に親しむ旬間」花いっぱい運動コンテストで金賞受賞、国土庁「水の郷百選」にも選定されました。

一方、魅力ある快適環境づくりのため、水質浄化施策を重点的に進めています。黒部川は、上水道や農業用水など地域の重要な水源となっています。平成9年度に、国県・流域4町において水環境改善緊急行動計画「清流ルネッサンス21」を策定。

広域的な視点から「安全でおいしい水の供給」と「人と生物が共生できる水辺環境の創出」を水質改善の目標に掲げ、浄化施設設置などに努めています。また、公共下水道、農業集落排水整備事業、小型合併浄化槽設置事業など、「全町下水道化」を視野に入れた多面的整備を進め、



みんなで河川清掃

幹線都市排水路浄化施設と合わせ、河川や水路の一層の水質浄化に取り組んでいます。

④ おわりに

黒部川を切り口とした諸施策の実現のためには、住民参加が不可欠です。本町では、計画の理念を、前期基本計画の「水からの発想」から、後期「自らの発想」に受け継がれました。これは、住民の主体的な取り組みにより、特色ある地域発展が創造されるとともに、21世紀初頭における「おしゃやれで元氣な拠点都市（アーバンライフ）」の実現を目指すものです。そして、地域の自立が促され、住民が誇りを持てるふるさとづくりにつながっていくものと考えています。

今後も、北総の拠点都市として、より一層の機能発揮・情報発信を努めて参ります。



美しく整備された「四季の花壇」

問い合わせ先

小見川町企画管理課

☎ 0478 (82) 1111

第3回 「水源地生態研究会議」及び 「水源地生態研究セミナー」開催

財団法人 ダム水源地環境整備センター
調査第二部

遠藤 幸宏

水源地生態研究会議

平成12年10月6日、(財)ダム水源地環境整備センターは、京都市内「ぱるるプラザ京都」において「第3回水源地生態研究会議」を開催しました。

この研究会議は、ダム事業による自然環境への影響や、その評価手法を研究する各種の専門的な委員会(森林生態研究委員会・希少猛禽類生態研究委員会・貯水池生態研究委員会・流況変動研究委員会)からの研究報告、および各委員会相互の意見交換や連絡調整等を行うことを目的として、平成10年より開催しています。

今回の会議では、山梨大学工学部土木環境工学科の竹内邦良教授より「水資源開発に当たって」というテーマで、日本における水資源開発の需要管理のあり方について話題提供をいただきました。



プログラム

講演

- ・特別講演：「川の生命を持続する」
川の健康度とその測り方
講師：ジェームス カー(米国ワシントン大学 教授)
- ・講演1：「持続可能社会への変革」
講師：内藤 正明(京都大学 工学研究科 教授)
- ・講演2：「GISとモデルとの統合による環境シミュレーション」
講師：柴崎 亮介(東京大学 空間情報科学研究センター 教授)

パネルディスカッション

テーマ：「生態調査・研究とIT革命」
現在の課題、今後の展望

- コーディネーター 小野 勇一(九州大学 名誉教授)
パネリスト 原 慶太郎(東京情報大学 教授)
矢原 徹一(九州大学 理学部 教授)
吉富 崇晴(NTT-AT(株) 第一技術部長)
江田 敏幸(アジア航測(株) 環境部長)

水源地生態研究セミナー

同日、会場において建設省近畿地方建設局(現国土交通省近畿地方整備局)、水資源開発公団関西支社の後援をいただき「第3回水源地生態研究セミナー」を併せて開催いたしました。本セミナーも平成10年より開催しているもので、水源地生態研究に関する研究発表等により、より広く多くの方々との知識を共有し、議論すること等を目的としているものです。

今回は、米国ワシントン大学のジェームス・カー教授に特別講演をいただくとともに、「生態調査研究とIT革命」をテーマとして、この分野で活躍されている先生方からの講演と、パネルディスカッションを行いました。

特別講演

ジェームス・カー氏 (米国ワシントン大学教授)
【「川の生命を持続する」
川の健康度とその測り方】



ジェームス・カー氏

環境政策としては、人間の活動の影響を物理的・化学的・生物学的側面をふくめて包括的に把握していく必要がある、そのためには河川の生物を多角的に評価することが有効な方法であるというお話をいただきました。さらに、河川の状態を把握するための生物学的指標の有効な活用事例等の紹介がありました。

最後に、「河川等の水域の保全をしていくことがひいては我々人間を健全に持続していくことである」という言葉で特別講演を締めくくられました。

講演1

内藤正明氏 (京都大学工学研究科教授)

【「持続可能社会への変革」



内藤氏

地球は閉ざされた有限の生命体であるということを意識し、流域社会全体の環境容量を考え直す必要があるというお話をいただきました。さらに、自然界の生態系をつまぐ利用しながら、今の大量生産・大量消費社会を循環社会に再構築する必要があるという提案がありました。

講演2

柴崎亮介氏 (東京大学空間情報科学研究センター教授)
【GISとモデルとの統合による
環境シミュレーション】



柴崎氏

GISをベースにして様々な環境シミュレーションが可能となること、GISがデータの重ね合わせや結合による時間的、空間的解析に優れたツールであることを、地球上の土地利用が気候との関係で紀元前7500年から現代までどのように変化してきたのかを事例として紹介いただきました。

パネルディスカッション

【生態調査・研究とIT革命
現在の課題、今後の展望】

講演に引き続き、小野勇一先生 (九州大学名誉教授) をコーディネーターに、矢原徹一 (九州



江田氏、吉富氏



小野氏、矢原氏、原氏

州大学教授)、原慶太郎 (東京情報大学教授)、江田敏幸 (アジア航測(株)環境部長)、吉富崇晴 (NTTアドバンステクノロジ(株)第一技術部長) の各氏をパネルにパネルディスカッションを行いました。

IT情報通信技術: Information Technology) の事例として、GISを用いた植生図の整備、動物テレメトリー調査等に触れ、現在の課題、今後の展望について会場の参加者を含めた討論が行われました。その中で、GISは革命的な技術、価値あるツールであり、既存のツールと併せて、ニーズにきちんと対応したデータを集めることが重要であるという意見が出されました。

会場は、工学・生物学・生態学関係の研究者をはじめ、建設省(現 国土交通省)、水資源開発公団、その他関係機関、民間企業の技術者、学生など約300人の聴衆で満員となり、会場からも終始活発な質問・意見が出されました。

おわりに

近年の情報通信・情報処理における技術革新は、生態調査・研究の分野においても大いに威力を発揮することが期待されています。

環境解析へのGISの活用等、その兆しが見えております。

会議での研究成果やセミナーが、生態研究並びにダム等の事業に携わる多くの方々の研究や業務の中で活かされていくことを期待しています。

ダム水源地活性化支援事業 認定結果

財団法人ダム水源地環境整備センター 調査第一部

全国のダム水源地では自治体を中心として、その活性化のためのさまざまな取り組みがなされてきていますが、水源地の自立的・持続的な発展を図るためには行政側が行う施策の他に、新たな取り組みが必要になっています。

財団法人ダム水源地環境整備センターは、水源地の活性化に寄与することを主要な目的の一つとしています。当財団が行う「ダム水源地活性化支援事業」は、財団の事業計画に基づき、『水源地の自立的・持続的な発展』に寄与する多様な活動に対し支援を行うものです。この支援事業は、平成21年度に創設され、募集を開始しました。なお、平成21年度認定団体およびその活動の概要は次のとおりです。

認定の趣旨

平成12年度の申請案件は、33案件でした。厳正な審査の結果、ダム水源地の自立的・持続的な発展、あるいは上下流交流を通して、積極的にダム水源地と受益地との結びつきを推進させ、ダム水源地の活性化に寄与することが期待される事業として次の5件が認定されました。

認定団体紹介

わくわく自然会（代表者：三須 秀一）

東北地方（横川ダム）

横川ダム周辺の環境整備を進めるため、人間と生き物とのふれあいの場をつくることを目標に地域住民が集まり、平成10年度に発足した。「叶水ふれあい生物村」を活動フィールドにし、整備計画作成、ピオトープづくり、観察会を実施する。

長谷村役場（代表者：宮下 市蔵）

中部地方（美和ダム）

「水源地花いっぱい運動とひまわりコンクール」、三峰川上下流の交流と水源地の大切さをアピールする事を目的に活動する。「水辺クリーン作戦」（キャンプサイト周辺の清掃）、「三峰川サマーピクニック」（美和ダム・高遠ダムの上下流の交流を促進）を実施する。

大野ふるさと振興会（代表者：東 慧）

近畿地方（大野ダム）

大野ダムで整備した約1000本のサクラや紅葉を中心としたダム公園を拠点にダム水源地住民による「むらおこし推進委員会」が平成元年に発足し、桜祭り、紅葉まつりが定着している。地域再発見「ふるさと探訪」「ふるさと茶屋」開設。特産品の開発研究、ふるさとマップ発行等を実施する。

特定非営利活動法人

豊前の国建設倶楽部（代表者：木ノ下 勝矢）

九州地方（耶馬溪ダム）

昭和61年、山国川流域の連携と参加をテーマに大分・福岡県境や行政区域を越え、流域を単位とした地域づくり実践活動の組織として発足した。

イベントを通じての交流からはじめ、研修会や講演会・分水嶺を歩き山国川を考えるツアーなど継続的な活動を実施する。

東村川田区（代表者：池原 善尚）

沖縄地方（福地ダム）

川田地区民により福地ダムでの湖面遊覧や周辺森林の散策等を企画実施し、また郷土の歴史や文化、伝統芸能を来訪者へ広く披露する等を通じて、ダム水源地に対する理解を深めるための特徴的な活動を実施する。

金城ダム竣工式

2月13日、沖縄県が県都那覇市を流れる安里川の上流部に建設を進めてきた金城ダムの竣工式を行政関係者、地元関係者および工事関係者約300人の出席のもと執り行われた。金城ダムは洪水調節、河川環境の保全等を目的とする、重力式コンクリートダムで、平成元年に工事着工以来、12年の歳月を経て竣工の運びとなった。

市郊外に建設された金城ダムは、県の代表的史跡である首里城に隣接しているため周辺特有の石畳道をモチーフにした遊歩道等も整備され、沖縄の自然と歴史、水と文化を体験する場として地域住民に愛され活用されるものと期待されている。



西山ダム竣工式

2月9日、長崎県が中島川水系西山川に建設を進めてきた西山ダム竣工式が、地元関係者および行政関係者等を集めて行われた。

西山ダムは、昭和57年の長崎大水害による治水対策として、古いダムを保存しながら治水機能も併せ持つ新しいダム建設を目的とする「長崎水害緊急ダム事業」の5ダムのうち



の1つであり、昭和58年度に建設採択を受けて以来、18年の歳月を経て竣工の運びとなった。

周辺には、展示室を備えた洋館風の管理事務所や公園などがあり、地域住民の学習の場、憩いの場として親しまれることが期待される。

淀川・水のふるさとフェア

1月21日(日)、京都市内の「京都府見本市会館」において「淀川・水のふるさとフェア」が開催された。

この催しは、淀川流域ダム水源地の関係府県および19市町村が参加している淀川水系ダム水源地ネットワークがダムや水源地の理解を深め、水源地の紹介と流域住民の交流を図ることを目的として主催したものである。当日は約2000人の参加者があり、メイン会場では特別講演や郷土芸能が紹介された。また、第2会場では19市町村をパネルで紹介したり、特産物の即売等が実施された。



平成13年度ダム水源地活性化支援事業のお知らせ

ダム水源地での自立的・持続的な発展に寄与する多様な活動をする団体を支援するため、(財)ダム水源地環境整備センターでは、平成12年度に「ダム水源地活性化支援事業」を創設しました。

この支援事業の平成13年度募集予定は、4月に募集要項を発表し、7

月末まで募集受付期間としています。ふるってご応募下さい。その後8月に審査・認定を経て採択が行われ、9月からの支援事業着手となります。平成13年度の応募案内は本誌「ダム水源地ネットワーク」3月号に折り込む予定です。

ホームページ
http://www.wec.or.jp

問い合わせ
調査第一部

03(3263)9925



編集メモ

中央省庁改革が行われました。本誌の文中にある建設省は国土交通省に、各地にある地方建設局は地方整備局へと移行しております。特に本号ではそれらの表記にご留意いただければと存じます。

発刊以来99号となる本誌には、これまでの水源地対策の歩みや、新たにスタートしたダム水源地の活性化支援事業の認定を紹介しています。

本誌専用メールが開設されています。次号は、100号記念です。ご期待下さい。

平成12年度入賞作品



小学生低学年・幼年の部 金賞
加藤 千明



小学生高学年の部 金賞
北元 功佑



中学生・高校生の部 金賞
神のぞみ



森と湖に親しむ旬間

平成13年7月21日～31日

統一標語

- 「ふれあいさわやか 森と湖」
- 「もうひとつ ふるさと 見つけた 森と湖」
- 「さわやかな 心のオアシス 森と湖」

第13回

森と湖のある 風景画コンクール

作品募集!

募集期限

平成13年6月8日(金) [必着]

募集区分

- 小学生低学年(1・2・3年生)・幼年の部
- 小学生高学年(4・5・6年生)の部
- 中学生・高校生の部

主催/国土交通省・林野庁・「森と湖に親しむ旬間」全国行事実行委員会
協賛/ホルベイン工業株式会社

入賞者等の発表/平成13年7月中旬に行います。

入賞者には郵便でお知らせします。各部門とも金賞1名、銀賞2名、銅賞5名、佳作10名及び入選若干名

応募先・問い合わせ先/〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2 (財)ダム水源地図環境整備センター内
「森と湖に親しむ旬間」全国行事実行委員会事務局 TEL 03-3263-9051

洪水を防ぎ、湯水に備えるダムと森。
水と緑は、仕事や暮らしに
なくてはならないものです。
そして、私たちの心のふるさとです。
小学生・中学生・高校生の皆さん!
「森とダム」「森とダム湖」を描いて、
ふるって応募してください。
あなたの明るく、個性豊かな作品をお待ちしています。

募集方法

「森とダム」または「森とダム湖」のある風景を描いた作品とします。
画材は、油彩を除きます。水彩絵の具、アクリル絵の具、クレヨン、パステルなどの画材を使用してください。
応募作品は、未発表のものに限ります。
作品のサイズは、B3以内とします。
作品の裏側に、作品募集チラシの「応募票」を必ずはってください。(画題、ダム名、氏名、年齢、学年、住所、応募区分等記入)
募集要領は別に配布します。